

第一編 總 說

位 置 及 地 勢	1
沿 草	1
合併當時の状況	2
市制実施直前の町村機構	3
本市年代史	4
市制実施以後の動き	5

第一卷

表

第一章 緒言	1	第九章 治安・防犯	77
第二章 一般人口	5	第十章 水 道	85
第三章 産業	11	1. 農業・林業・水産・林業振興施設	85
第四章 住宅	13	2. 都市計画 住宅施設	89
第五章 交通	21	3. 都市計画 交通施設	100
第六章 公園・緑地	27	4. 都市計画 公園・緑地施設	107
第七章 文化・娯楽	30	5. 都市計画 文化・娯楽施設	111
第八章 衛生	37	6. 都市計画 衛生施設	123

位置及地勢

八尾市は海拔8米、東経135度36分、北緯34度37分の地点に在り、東は中河内郡南高安町及同郡高安村、南は南河内郡志紀村、西は大阪市の東南端東住吉区に、北は布施市に接続し陸路交通の要衝をなしている。

東に大阪府と奈良縣の境を南北に走る信貴生駒の連峰、南は大和川を経て、二上及金剛山に囲まれ、廣漠たる河内平野にして、長瀬川、楠根川、玉串川が南北に貫流している。この河川は源を大和川に発し、往古は屢々氾濫したが、宝永二年本流を南西部大阪湾に放流するに及んで水難全く免れ、現在にては砂質、丘状地の間を僅に流れているに過ぎない。交通には南部を、国鉄関西本線が東より西に走り、更に北部を近畿日本鉄道大阪線が又東より西に走る。又大阪市バスの乗入、近畿日本鉄道バス市内を東西南北に縦走し、大阪市及び北河内郡と南河内郡をつなぐ。市は東西8,275軒、南北12,440軒、其の総面積19,2918平方軒である。市の西南部には大阪市より奈良市に通ずる大産業道路あり、更に南端より市中を北に貫通する幅員20米の産業道路ありて、大阪市より奈良、三重の両縣に通ずる主要運輸路線である。

沿革

本市は昭和二十三年四月一日大阪府中河内郡所在の旧八尾町、旧龍華町、旧久宝寺村、旧大正村、旧西郡村の五箇町村を解消、合併し、その区域を以つて市制を施行したものである。

旧八尾町……明治維新以前は、諸藩の諸領代官の支配地寺院の采地に屬していたが、其の後大阪市農局の支配下、或は河内縣又は知藩事の管轄となる等、幾多の変遷を経て、明治四年十一月堺縣の管轄に移り、同十二年八月八尾郡役所管内となり、更に同十四年二月大阪府の管轄に轉じたものである。

八尾は、箭尾又は矢尾などと記し、上古弓削郷の一部であつた。この地はもと河内神別矢作連の本居にして、矢作部即ち造箭の部民の住居せし地なりしが故に、今なお、矢作、弓場の地名存し、又式内矢作神社は大字別宮にありて矢作連の祖經津主命を祭祀する。又現在の西郷、木戸、東郷、庄之内、成法寺、今井、別宮、八尾座の諸村を指して古は八尾村と稱し、後に寺内村及び大信寺田を合せ、明治二十二年四月一日町村制施行に及びては、以上十ヶ村の外に穴太、佐堂、萱振、小坂合、八尾中野、山本新田の六ヶ村を加えて八尾村と稱し、明治三十六年八月三十一日に町制を布き、八尾町と改稱した。

旧龍華町……明治維新に際し、明治元年幕府所領所司代役地及び旗本の采地は、大阪鎮台南司農局の管轄に屬したが、同二年一月廢藩置縣に際して河内縣に轉じ、同年八月堺縣に移り、同十三年五月八尾郡役所管下となり、同十四年二月大阪府に併合せられ、町村制

の施行に当り、植松村、澁川村、安中村、太子堂村、竹淵村の六ヶ村を合併し其の区域をもつて一村を設け、その地には龍華寺の址があり、旧穰莊であつて、莊名は又龍華寺から出ているので、之れを採つて龍華村と名付け、各村は其大字となり明治二十九年四月中河内郡に属し、其後村勢の發展により昭和二年六月一日龍華町と改称した。

旧久宝寺村……上古「許麻の莊」と称し、徳川時代は幕府代官の支配であつたが、廢藩置縣に際し河内縣の所管となり、同二年堺縣に移り、同十四年大阪府に併合せられ、丹比郡外五郡設置に当り、澁川郡に属したが、明治二十二年四月一日町村制施行に依つて久宝寺村、顯証寺新田、三津村新田の三ヶ村を合し久宝寺村と称し、明治二十九年四月中河内郡の所管となつた。

旧大正村……明治二十二年四月一日町村制施行せらるるや、同年一月新に村区域を編成し、木ノ本、南木ノ本、北木ノ本の三部落を合して三木本村と称し、南河内郡に属せしが明治二十九年四月一日中河内郡に編入せらる、大正二年五月一日南河内郡太田及沼を合して大正村と改称した。

旧西郡村……明治十七年旧若江郡西郡村、若江北村、若江南村、玉井新田の四村連合し、其後明治二十二年町村制の実施に際し、玉井新田と若江村とを分離し、中河内郡西郡村と称した。

斯くして、大阪市の發展に伴い、其の隣接衛星都市として、陸路交通の便なる吾が八尾市は戸口の著しく増加を來し、中にも近畿日本鉄道八尾駅、久宝寺口駅、山本駅、高安駅の各沿線及び、大正、萱振、中野等の各地区に於ける府営住宅地、国鉄八尾駅附近等の急激なる發展躍進をみ、其の施設の完備と産業の興隆と共に其の面目を一新して名実共に大商工都市を形成しつつある。

幸にして戦災をまぬがれた当市としては、將來への飛躍の基盤としては、東方の山麓農村を併合して、以て観光と衛生諸施設を行い大阪府下に於ける一大健康地の計画を樹立し産業の繁榮と結んで、文化都市としての一大躍進をせんとするものである。

合併當時の戸数及び面積

種 別	旧 八 尾 町	旧 龍 華 町	旧 久 宝 寺 村	旧 大 正 村	旧 西 郡 村	合 計
戸 数	5,460戸	4,447戸	2,405戸	1,368戸	860戸	14,540戸
面 積	847方里	916方里	347方里	357方里	9方里	2476方里
東 西	25町	1里10町	15町	19町	17町	3里14町
南 北	36町	20町	10町	24町	7町	2里25町

市制實施直前の各町村機構

旧町村名	町 村 長 名	助 役 名	議 長 名	議 員 名
八尾町	岩 田 亀 吉	杉 本 邦 三 郎	戸 田 一 平 (議員数 30名)	近 沢 武 茂 谷 口 安 吉 谷 浦 清 七 菊 田 岩 吉 川 畑 浅 次 郎 寺 田 勘 一 辻 村 乙 三 木 山 義 一 白 井 庄 太 郎 田 中 與 三 郎 足 立 導 三 西 川 増 次 郎 柴 本 白 井 季 藏 岡 山 浪 四 郎 大 北 正 太 郎 中 島 元 治 郎 西 国 尾 一 嘉 岡 本 淺 吉 桐 山 一 夫 西 岡 篤 小 池 十 太 郎 中 西 喜 三 郎 田 中 恒 太 郎 高 橋 卯 之 助 坂 田 博 好 羽 多 野 與 久 鶴 飼 務 深 江 定 次 郎
龍華町	田 中 佐 一 郎	栗 山 利 徳	塩 川 彦 五 郎 (議員数 26名)	田 中 安 太 郎 花 田 晋 吉 辻 村 義 徳 藤 本 安 太 郎 山 口 栄 治 吉 田 太 郎 田 中 穂 積 川 内 牧 太 郎 川 近 沢 清 兼 浜 田 正 雄 裏 野 弁 藏 山 崎 安 太 郎 吉 沢 太 吉 郎 門 川 奈 良 一 田 和 藤 一 郎 松 村 富 藏 淺 野 繁 雄 栗 山 亀 太 郎 中 登 隆 三 郎 浦 野 亦 太 郎 沢 田 多 三 郎 辻 村 治 三 郎 横 塚 鉄 嶺 浅 尾 鶴 松 内 川 長 次 郎
大正村	松 本 貞 二	谷 原 平 太 郎	平 岡 末 吉 (議員数 21名)	梅 田 作 治 清 水 菊 太 郎 松 村 万 壽 子 寺 内 幸 夫 北 野 安 次 郎 角 野 平 太 郎 羽 井 末 次 郎 辻 野 辰 三 郎 柏 木 光 三 平 谷 浅 吉 吉 田 新 太 郎 中 西 政 太 郎 千 種 辰 次 郎 木 村 己 之 吉 杉 本 石 三 櫻 井 正 太 郎 森 本 善 造 刈 野 武 藤 田 常 次 郎 藤 田 常 次 郎 植 田 藤 三 郎
久宝寺村	脇 田 幾 松	乾 兼 三 郎	角 谷 常 次 郎 (議員数 21名)	福 本 繁 松 金 井 三 次 郎 野 間 廣 次 白 木 坂 治 武 村 朝 雄 田 中 頼 山 田 健 三 竹 中 久 藏 大 倉 藤 次 郎 堀 江 一 大 御 内 幸 次 郎 石 田 善 碩 吉 村 栄 高 連 藤 次 郎 田 中 徳 三 郎 木 村 徳 三 中 元 行 高 井 上 利 治 瓦 谷 信 三 浅 野 富 夫
西郡村	梶 本 成 可	木 下 吉 太 郎	吉 本 伊 之 治 (議員数 15名)	吉 村 徳 飯 尾 松 次 郎 和 田 一 雄 木 下 博 夫 沢 田 好 雄 大 西 八 三 郎 柴 田 新 太 郎 大 西 徳 太 郎 櫻 井 繁 夫 吉 岡 芳 成 西 村 長 三 郎 高 井 光 夫 井 上 義 一 郎 長 谷 部 磯 吉

寺の址
年四月

界縣に
之久宝
客を合
を合し

玉井

幾日本
の急激

を行い

計

540戸

6方里

里14町

里25町

八尾市年代史の概要

紀元	年号	天皇	事	績
587		用明	馬子、物部守屋滅ぼす(守屋墓)	
593		推古	四天王寺建立、守屋の所領地施入	
769	神護3	称徳	天皇龍華寺行幸、弓削宮を西京となす	
800	延暦19	桓武	龍華寺に天皇田地施入	
1158	保元3	後白河	高塚地藏建立	
1327	嘉暦2	後醍醐	藤原盛継生る(常光寺建立者)	
1338	延元3	〃	高木八郎兵衛、八尾城を焼く	
1347	正平2	後村上	八尾城再建、楠正行八尾城を攻む	
1348	正平3	〃	楠正行戦死、細川頼之八尾城をせむ	
1370	建徳元	長慶	細川頼之、八尾城を攻め落す	
1391	元中8	後小松	真観寺建立	
1470	文明2	後土御門	惠光寺建立、蓮如上人慈願寺に来る	
1471	文明3	〃	多喜地藏建立	
1479	文明11	〃	西証寺(久宝寺御坊)建立	
1482	文明14	〃	畠山政長弟義就と戦う植松の堤を切る	
1510	永正7	後柏原	畠山義央八尾城におる、8月大地震常光寺倒る	
1528	享祿元	後奈良	常光寺の石地藏建立	
1533	天文2	〃	顯証寺建立	
1534	天文3	後柏原	植松の堤が切れ大水となる	
1568	永祿11	正親町	池田丹後守、八尾城に居る(切支丹)	
1575	天正5	〃	久宝寺鱗角堂中興	
1577	天正5	〃	久宝寺城を攻め落す、本願寺光佐	

紀元	年号	天皇	事	績
1598	慶長3	後陽成	慈願寺、久宝寺より八尾に移る	
1606	慶長11	〃	森本七郎兵衛、寺内村開拓移住	
1607	慶長12	〃	大信寺建立	
1614	慶長19	〃	大野道丈八尾に火を放つ、大阪冬の陣	
1615	元和元	〃	木村重成戦死、大坂夏の陣(西郡墓)	
1646	正保3	後光明	劍先舟認可	
1670	万治3	後西	大信寺が今の所にうつる	
1679	延宝7	靈元	検地終る	
1704	宝永元	東山	大和川のつけかえ終る、長瀬川小さくなる	
1706	宝永3	中御門	井路川舟が認可さる	
1720	享保6	〃	大信寺新田、環山楼の額を伊藤東涯が書く	
1827	文政4	仁孝	飯田忠彦、大日本野史編集始む	
1835	天保6	〃	八尾札発行	
1845	弘化2	〃	伴林光平、成法寺に来る	
1846	弘化3	孝明	樂山上人死す(木戸清慶寺)	
1851	文久元	〃	飯田忠彦、自殺す(63才) 伴林光平、大和にうつる	
1864	元治元	〃	伴林光平、獄死す(52才、京都にて)	
1867	慶應3	明治	慶喜將軍職奉還、王政復古の大令発す	
1868	明治元	〃	大阪鎮合、大阪府となる	
1869	明治2	〃	諸藩版籍奉還、河内縣が出来役所を八	

			尾御坊におく、和泉河内の両縣を廢し堺縣をおく
1831	明治14	〃	堺縣を廢し、大阪府の管轄に入る
1889	明治22	〃	町村制の発布により、16村が合して八尾村、3村合して三木本村、西郡村は若江と別れ、6村合して龍華村、3村合して久宝寺村となる

1896	明治29	〃	大阪府立第三中学校設立(現八尾高)
1903	明治36	〃	八尾村が八尾町となる
1913	大正2	大正	太田村が三木本村と合して、大正村となる
1914	大正3	〃	大正天皇、八尾行幸(御所立所)
1927	昭和2	今上	龍華村が龍華町となる、大阪府立八尾高等女学校設立さる(現山本高)

市制實施以後の概要

昭和23年~同27年

昭和二十三年

月日	主 要 事 項
4 1	旧八尾町他四ヶ町村合併市制を實施(市長職務執行者松本貞二)
5 5	市会議員36名当選
5 10	脇田幾松初代市長に当選
5 11	市長職務執行者(元大正村長)松本貞二被免
5 12	市長登庁執務(就任挨拶)
5 14	第一回市議会開催(八尾小学校作法室)
〃 〃	議長に辻村乙三、副議長に松村富藏当選
6 1	柰倉政治助役に就任
12 25	古藤敏夫助役に就任

昭和二十四年

3 23	西郡小学校新築落成
6 6	亀井保育所新築落成
8 13	農業会館(大字太子堂)落成

月日 主 要 事 項

10 5	久宝寺中学校新築落成
11 10	西郡児童公園竣工

昭和二十五年

1 20	市民病院(現市立病院)改築落成
2 1	助役柰倉政治収入役に改任
2 18	山本小学校増築工事落成
4 15	用和小学校新設工事落成
4 13	久宝寺火葬場新築落成
8 7	公民館改装工事落成
8 26	消防署庁舎落成
8 30	八尾中学校増築落成
9 3	ジューン台風襲來家屋倒壊650戸、罹災者5,500名(損害15,000万円)
9 4	竹淵小学校新築落成
10 15	消防署望楼竣工(高さ28M)

- 10 10 市議補欠選挙(2名)
12 1 本日より関西線快速車八尾駅に停車す

昭和二十六年

- 3 3~4 新庁舎落成式及市制三周年記念式典
〃 〃 昭和26年版市勢要覧発行
3 5 今村安司議長に石田善碩副議長に当選
3 7 初代議長辻村乙三死去
6 14 久宝寺小学校増築工事落成
6 30 母子寮及保育所(西郷)新築落成
7 10 竹淵地区水害、床上浸水238戸、床下523戸、冠水300町歩
9 8 対日講和成る(49ヶ国)
10 11~27 市商工まつり(17日間) —11日商工祭典—
11 10 市民病院(現市立病院)結核病棟落成(50ベット)
11 5 日赤奉仕団本市支部結成式
11 20 八尾水源地浄水場擴張工事落成

昭和二十七年

- 1 30 萱振地区に市営住宅(30戸)新築落成
3 25 市勢要覧(昭和27年版)発行
3 26 市議会議員定数31名(5名減員)と決定

4 12 山本小学校講堂落成

4 23 講和発効の日

5 1 脇田市長再選

〃 〃 市会議員31名当選

5 16 石田善碩議長に、羽多野與久副議長に当選

5 19 龍華西出張所落成(現竹淵出張所)

5 24 戦没者追悼式(八尾小講堂)

6 22~23 ダイナ台風來襲、淵竹地区420戸、萱振地区 316戸
浸水

7 10~11 豪雨來襲(災害救助法発令)床上浸水520戸、冠水
450町歩

7 15 近鉄バス花園—八尾間開通

10 5 市教育委員4名当選

10 11~25 八尾まつり、市制五周年記念式典

〃 〃 市有功條例により20名表彰、功勞者に推薦

11 1 教育委員会発足

11 12 西郡診療所開設

11 30 商工会館落成

12 1 山本出張所改築落成

12 19 古藤助役再任

第二編 土地人口

面	積	7	
免	租	地	7
市	有	地	7
民	有	地	7
人口及世帶數	8		
職業別人口	8		
年度別人口	8		
月別遷出入者數	9		
本籍人口及戶籍數	10		
戶籍事務取扱數	10		
外國人取扱者數	10		
人口動態月別概況	10		